

教職をめざす学生の社会的事象の見方・考え方の育成

小学校社会科における「わたしたちの日野市」の教材づくりを通して

明星大学教育学部教育学科 特任教授 佐藤 公 孝

将来多くの学生が教職をめざす教育学部の講義において、学生自身が主体的・対話的で深い学びにつながる問題課題解決の学習活動を体験し、学ぶ立場から、指導する立場の視点を持ち各教科等の単元・授業づくりを考えることは重要である。

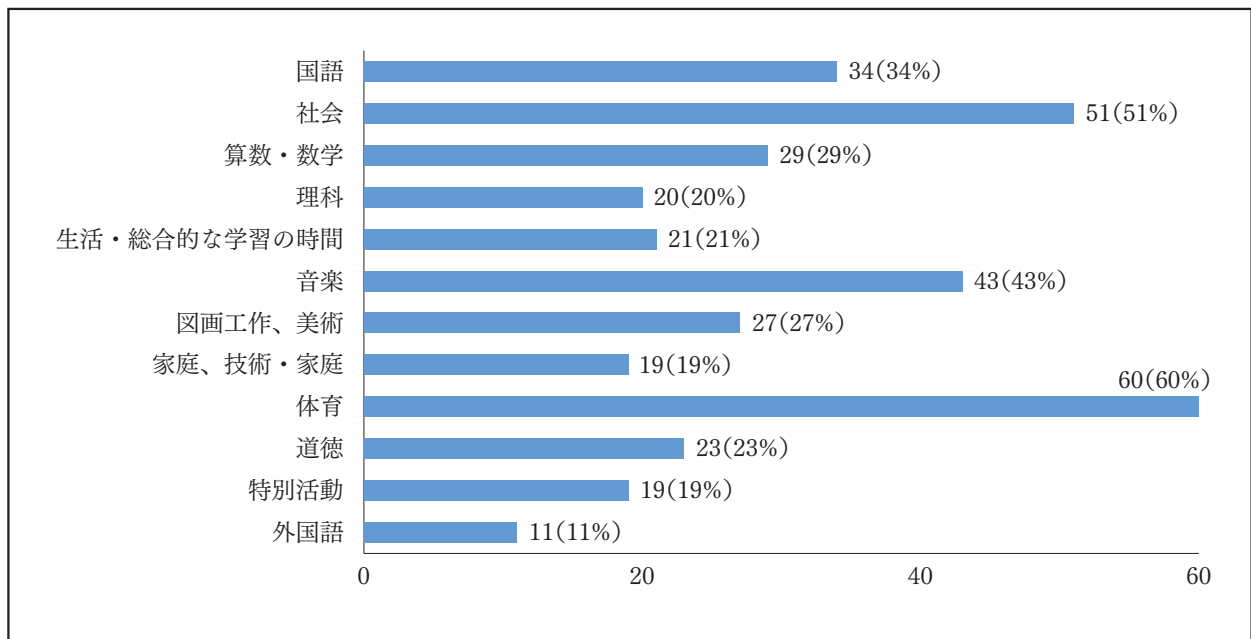
本実践では、児童がはじめて社会科に出会う地域単元において、グループで調査活動とICTを活用して教材づくりを行った。そして、活動の振り返り及び教材の内容（吹き出しの問い）から、学生がどのような社会的事象の見方・考え方に着目して教材づくりを進めたか考察した。

キーワード：社会的事象の見方・考え方 学ぶ立場から指導する立場の視点

1 実践へのアプローチ

1) 学生の「社会科」に対する意識

表1：小中学校の時、好きな教科、どちらかといえば好きな教科（複数回答） n = 100



本講座の受講生は、教育学部教育学科1学年(各教科等専科)の学生である。第1回講義の冒頭でアンケートを実施した。表1は小中学校義務教育において、好きだった教科(複数回答)のアンケート結果である。

社会科への好感度は体育60%につぎ51%と約半数の学生が好意的にとらえていた。また、社会科の教科に対する印象についての自由記述では「今世の中で何が起きているかを理解するために重要な教科」「身の回りのことから地球規模まで、文化や社会の成り立ちなどが学べる」「人間の本質のようなものが見えるもの」「歴史を学び歴史から学んだことを次世代につなげていく」など社会科を学ぶ価値や社会事象を考える楽しさに触れている内容(10件)があった。その一方、「歴史は背景があって奥深い、地理は数学み

たいでやりづらい」「内容ごとに興味のもちようや学習意欲に変化が出てくる教科」「地理とか歴史とかを学ぶという抽象的な印象。地図帳は好きだった」など中学校から分かれる分野ごとの学び方や学習内容への得意不得意についての記述(11件)、「覚えるのは大変だけど、テストでいい点数を取ったら嬉しい教科」「小中学生の時は暗記科目で授業も大して面白くなかった」等、覚えることが多い、暗記教科という印象についての記述(31件)があった。

アンケートから、他教科と比べて社会科への好感度は高いものの、歴史的分野、地理的分野、公民的分野のねらいとそれぞれの関連について、小中学校を通じて、各分野それぞれの社会的な見方・考え方を働かせ、社会事象を多面的・多角的に捉え、考える授業の経験が十分でなかった傾向があると考えられる。

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説社会編、改訂の趣旨においても「小学校社会科では、中学校社会科の分野別の構成とは異なり、社会的事象を総合的に捉える内容として構成されている。そのため教員は、指導している内容が、社会科全体においてどのような位置付けにあるか、中学校社会科とどのようにつながるかといったことを意識しづらいという点が課題として指摘されている。」と述べられており、さらにそのことを踏まえ小・中学校社会科の内容を、ア地理的環境と人々の生活、イ歴史と人々の生活、ウ現代社会の仕組みや働きと人々の生活という3つの枠組みに位置付け、それぞれの社会的事象等を見たり考えたりする際の視点や方法を「社会的な見方・考え方」と整理して、時間、空間、相互関係などの視点に着目して単元・授業づくりをしていくことが示されている。

将来教員をめざす本学生が、学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、各分野の関連を小学校社会科より「社会的な見方・考え方」を働かせ、単元の問いを追究していく問題解決型の授業の基本を理解することは重要と考える。

2) 本講座のカリキュラム上の位置と指導する立場の視点

① 本講座のカリキュラム上の位置

本講座は1年生を対象にした小学校社会科基礎講座である。本学カリキュラムマップにおいては、学部基礎的、入門・導入的な内容として、DP 5(体験を通して技術・技能を身に付ける)と最も関連のある科目として位置づけられている。

そのことを踏まえ、学生が小中高等学校を通して学んできた立場から、教える立場の視点へと転換を図りながら小学校社会科における体系的な目標と指導内容等を踏まえ各学年の特徴的な単元における教材づくり等の体験を通して単元・授業づくりの基本的な考え方を学んでいくことを本講座のねらいとしていく。

② 指導する立場への視点を培うために

長く小学校の教員として実践してきた筆者は、社会科の単元・授業づくりは、まず、教員が社会の出来事にアンテナを張り、興味・関心をもつことが何より大切であると考えている。そして、教員自身が調査活動や資料収集を通して学ぶ価値があると感じた「社会的事象」と児童の実態(生活経験と社会への意識)、学習指導要領で示された指導内容の3つをつなげ、教材や単元づくりの思考作業を繰り返していくことを楽しむ姿勢が大切である。その思考作業は、全教科を教える小学校教員にとって、社会科だけではなく汎用性の高い教材や単元づくりの基本と考えている。

そこで、本実践では、児童がはじめて社会科に出合う地域単元において、学生がグループで調査活動とICTを活用して教材づくりを行った。そして、活動の振り返り及び教材の内容(吹き出しの問い)から、学生がどのような社会的事象の見方・考え方に着目して教材づくりを進めたか考察した。

2 実践の内容

1) 講義のねらいと組み立て

① 問題解決型の単元構成の基本の理解とICTを活用した白地図等の作成

まず、学習指導要領における3年生の目標及び指導内容を体系的に理解した上で、「新しい社会」年間指導作成資料(3年)東京書籍HPを参考に問題解決型の単元構成のモデル(表2)を示した。また、小学校3年生の知識及び技能において「観察・調査したり地図などの資料で調べたり、白地図などにまとめること」が示されており、基本的な白地図を作成する知識及び技能は教員にとって不可欠である。そのため、ICTを活用した白地図づくりを国土交通省 国土地理院 地理院地図 <https://www.gsi.go.jp> を利用して次の内容で行った。

- 1 日野市の白地図をつくる
 - ・市の境界線を破線から実線にする・表記できる内容(地図記号等)を編集する
 - ・標準地図や標高地図などもつくる
- 2 自分の出身地の市町村区の白地図をつくる

表2：基本的な問題解決型の単元構成

つかむ 「出会う・問いをもつ」 第1時～第2時
①空から見ると日野市のようすはどうなっているのだろうか。 * 日野市の位置 ○ICTコンテンツ 国土地理院地図とキッズページ ②日野市の様子について調べるのはどうしたらよいのだろう * 明星大学周辺の四方位の写真から地形や土地利用に着目して学習問題を考える (学習問題)わたしたちの住む日野市は、どのような様子だろうか * 調べることと調べる方法を話し合う
調べる 「情報を集める・読み取る・考える・話し合う」 第3時～第8時
③日野市の土地のようすは場所によってちがいがあのだろうか * 地形に着目して⇒地形図や写真資料から、地形的な特徴を理解する ④市役所や市役所のまわりは、どのようになっているだろう * 公共施設の場所に着目して⇒資料などから、市役所の役割や周辺から公共施設の役割を理解する ⑤日野市の公共施設には、どんな役割があるのだろうか * 公共施設の役割に着目して⇒公共施設の種類や働き、分布から公共施設の役割を理解する ⑥日野市の土地の使われ方は、どのようになっているのだろうか * 土地利用に着目して⇒土地の広がり様子や場所による違いを理解する ⑦日野市の交通はどのようになっているのだろうか * 交通の広がりに着目して⇒交通手段や交通網の広がり、場所による違いを理解する ⑧日野市に古くから残る建物にはどんなものがあるだろうか * 古くから残る建物の分布に着目して⇒古くから残る主な建物の分布の歴史的背景を理解する
まとめる 「整理する・生かす」 第9時～第11時
⑨日野市の様子やよさが伝わる地図を完成させよう * 調べたことを関連づけて考える ⑩日野市のよさを伝える地図に題名をつけよう * 日野市の全体の様子を総合して考える ⑪地図を完成して日野市のおすすめスポットを○○さんへ紹介しよう まとめ「整理する・生かす」は単元のゴールとして工夫することができる ★問題解決・追究していく学習の繰り返しで、子どもたちの社会的な事象への見方・考え方を育む

②グループでの計画を考える

学生にとっては、コロナ禍でまだ制限のある中で協働的な学習に取り組むことになる。そのため、グループ活動の視点やねらいを明確に示した上で学生が創意工夫をして活動できるように次の1)から3)の基本的な手順および教材のモデル(図1)を示した。特にICTを活用して必要な地図を作成すること、社会的な見方・考え方を働かせるために、課題追究につながる問いや疑問を児童の吹き出しにすること、教材で着目させたい視点を教師の吹き出しにすることを教材づくりのポイント(参照 下線部分)として示した。

日野市のように 課題を決めて調べよう

1) 友達と役割を決め協力して資料を仕上げる

- ・グループ編成 2名～8名
- ・着目する視点を決めて調べ活動をする
 - ①地形 ②公共施設の場所
 - ③公共施設の役割 ④土地利用
 - ⑤交通 ⑥古くから残る建物から1つを選ぶ

2) 調べる方法

- ・1か所以上、調査活動を行う(写真を撮る)
- ・国土地理院地図を活用して必要な地図を作成する

3) まとめ方

スライド1枚にまとめる

- ・問いや疑問を児童の吹き出しにする 教材で着目させたい視点を教師の吹き出しにする
- ・多摩市の副読本を参考にして、小学校3年生への教材をイメージして作成する
 参照資料:『わたしたちの多摩市 3・4年社会科副読本』多摩市教育委員会HP
<https://adeac.jp/lib-city-tama/viewer/mp000030-200040/reader03/>

③教材づくりにおける振り返り

活動日には、20グループに分れ、場所や方法を自分たちで計画・決定し行った。活動後は明星LMSのアンケート機能を活用して振り返りを行った。次の内容は振り返りの一部である。

- *今日は、2限にAさんと甲州街道の「日野宿本陣」を調査し、3限でAさんと別れた後、お昼の時間にBさんと「高幡不動尊」を調査しました。日野市は、新撰組と深い関係のある市なのだと分かりました。

①道中で万願寺にある「土方歳三資料館」が気になったので、開館日にいつか行ってみたいと思いました。また、日野宿本陣まで行くのに「有山家」と呼ばれる歴史のある建造物を見つけ、それもとても気になりました。日野宿本陣も高幡不動尊も自然が豊かで静かで調査をしながら優しい気持ちになりました。

- *AさんとBさんと中央大学・明星大学駅と多摩動物公園駅と程久保駅で交通の繋がりの実地踏査を行った。駅を実際に降りて、周辺の撮影をした。

②モノレールのホームから地形を見てみると、日野市は土地の高低差が大きい土地だと思った。もし電車を走らせるとなると線路を敷くのが大変だなと思った。多摩動物公園駅は、京王線へ乗り換えが出来る駅だった。程久保駅には高幡不動駅行きのバス停があった。交通の便を考えると、少し大変だなと思った。

①は地域を実際に歩くことで偶然見つけた「土方歳三資料館」「有山家」に興味・関心をもちながら、自然豊かなまちの雰囲気を感じ取っている。②はモノレールのホームから土地の高低に着目することで、電車ではなくモノレール敷設の理由に触れている。児童の追究の問いにつながる内容をホームから土地の高低差を実感したことから述べている。

また、各グループが、一緒に調査活動をしたり、役割を分担してスライドの編集と調査活動をSNSな



図1：教材のモデル

どで情報を共有してそれぞれが活動したり、学習形態や進捗状況を調整しながら活動を進めていたと考える。見通しを考えながら主体的な活動を行っていた。

④教材内容と問いについて

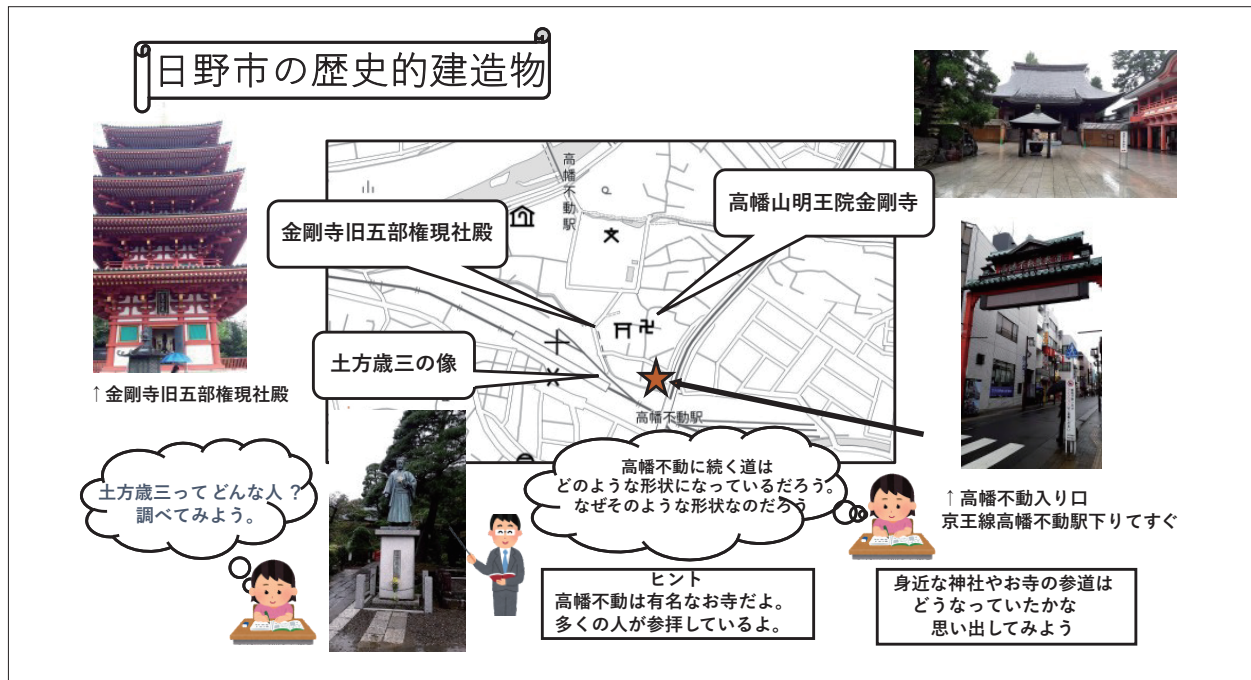


図2：日野市の歴史的建造物教材例

図2は学生が作成した歴史的建造物に着目した教材例である。20グループのイラストの吹き出しにおける児童の気付きや問い(C)と教師が児童に着目させたい視点への問い(T)について、社会的事象の見方・考え方につながる3つの視点、①位置や空間的な広がり、②時期や時間の経過の視点、③事業や人々の相互関係の視点について分類を行った。

【①位置や空間的な広がり】

- どうして市役所の周りにはいろいろ揃っているのかな？(市役所C)
- たくさん線路があるよ。どこに繋がっているのかな。(交通C)
- 公共施設が駅に近いところが多いね。(公共施設C)
- 体育館や図書館は駅の近くにあるね。しかし、図書館がこれほど多いのはなぜですか？
(公共施設C)
- モノレールが南北にのびてるよ。(交通C)
- 駅の近くに歴史的建造物があるね。ほかの歴史的建造物はどんなところにあるかな？
(古くから残る建物C)
- 日野市には鉄道の路線が3つあるね。路線はそれぞれどこにつながっているのかな。
(交通T)
- きっと他の場所にもそれぞれの深い“歴史”があるはず！(古くから残る建物T)

【②時期や時間の経過の視点】

- これらはいつ、どんな目的で建てられた建物なんだろう？(古くから残る建物C)
- どうして、最近になって記念碑が作られるの？(古くから残る建物C)
- どうして現在まで残っているんだろう。(古くから残る建物C)
- 高幡不動尊は重要文化財です。だから現在まで大切に保存されているんだね。
(古くから残る建物T)

【③事業や人々の相互関係の視点】

- ・高幡不動尊と土方歳三はどんなつながりがあるのかな？（古くから残る建物C）
- ・実は、図書館は本を貸し借りするだけの場所ではないのです。その役割を調べてみれば市内の色々な場所にある理由がわかりますよ。（公共施設T）
- ・「宿」や「本陣」、「不動尊」という言葉に注目すると、それぞれの建物の役割がわかりそうだね。二つの建物に共通点はあるかな。（古くから残る建物T）

位置や空間的な広がり の視点では、市役所や駅を起点の位置として示し、「つながる」「のびる」という空間的広がりに関する問いや「他の場所」という位置を示し比較する問い、その場所の周辺施設の充実を示す「揃っている」、様子を考えさせる「どんなところか」という問いがあった。時期や時間の経過の視点では、時間を示す「いつ」、現代までの時間の経過を示す「最近になって」「現在まで」「残る」の問いがあった。事業や人々の相互関係の視点では、「役割」「AとBはどんなつながりがあるか」という問いがあった。

学生は調査活動を通じた教材づくりにおいて、小学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編に例示されている、位置や空間的な広がり の視点「どのような場所にあるか」「どのように広がっているか」、時期や時間の経過の視点「なぜ始まったのか」「どのように変わってきたのか」、事象や人々の相互関係の視点「どのようなつながりがあるか」「なぜこのような協力が必要か」など、学びの方向性を決める問いを作成することが概ねできていた。

3 考察

1) 実践を振り返って

「社会的な見方・考え方」は、社会科を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり、社会と社会科の学習をつなぐキーワードである。本実践において、学生は調査活動を通して、「社会的な見方・考え方」に着目して、児童の立場から「小学校3年生であれば、このような問いや疑問をもつだろう」、また、教師の立場から「児童に、ここに気がついてほしい。ここに着目して考えてほしい」など、児童の実態や教師の立場を想定しながら教材づくりを進める姿があった。

一方、「問い」は児童の教材に対する素朴な気付きや疑問から、教師が調べたり考えたりする事項を示唆し学習の方向性を導くものまで幅広い。そのような「問い」の特性を考える時、自分たちが考えた教材の「問い」から児童がどのようなことを情報収集し、情報をどのような視点で整理、まとめていくかという児童の思考のプロセスを話し合い、単元のどの学習場面で、どのような問いが有効であるかを考える活動を取り入れていく必要性を改めて感じた。

2) 本講義の構成と改善の視点

本講義では、教える立場の視点へと転換を図りながら、各学年の特徴的な単元における教材づくり等の体験を通して単元・授業づくりの基本的な考え方を学んでいくことに取り組んだ。本実践の他に5年生では「情報化した社会と産業の発展」の新しい小単元「情報を生かす産業」を扱い、著しく発展する情報を生かす産業においてグループでウェブマップを作成し、その中から一人一課題を決め各自が音声説明付きのスライドを作成した。そして、明星LMSを活用して相互視聴を行い、高度化する情報産業における可能性と課題について、自身の考えを深める学習活動に取り組んだ。さらに、6年生「日本の歴史」では、多摩センターにある東京都埋蔵文化財センターの主任調査研究員によるICTを活用した遠隔講座と企画展「境道恵～多摩丘陵の3つの顔～」の施設見学を組み合わせ、専門家より歴史を学ぶ面白さや意義を学んだ。そして、歴史学習の導入において身近な施設見学から児童に興味・関心をもたせる単元づくりについて学べるように取り組んだ。

どの実践においても、活動後の振り返りの重要性を感じた。今後は、教材などの作品のグループ内での対話的な振り返りやLMSを活用した相互評価など改善の視点をもち実践を重ねていきたい。

参考文献・引用文献

- 宮崎猛 吉田和義(2019)『社会科教育の創造－基礎・理論・実践－』 教育出版
- 安野功 加藤寿朗 唐木清志 児玉大祐 石井正広 小倉勝登 中田正弘編(2017)『平成29年版小学校新学習指導要領 ポイント総整理 社会』 東洋館出版社
- 澤井陽介(2018)『小学校 新学習指導要領 社会の授業づくり』 明治図書
- 澤井陽介(2022)『本当に知りたい社会科授業づくりのコツ』 明治図書
- 小学校学習指導要領解説社会科編(平成29年告示) 文部科学省
- 中央教育審議会答申(平成28年12月)「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」別添資料 文部科学省